

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26780078

研究課題名(和文)日本における政治家の政治活動とキャリア形成に関する実証的研究

研究課題名(英文)Analyzing Political Activities of Legislators in Japan

研究代表者

尾野 嘉邦(Ono, Yoshikuni)

東北大学・法学研究科・教授

研究者番号：70598664

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：政治家の政治活動とキャリア形成について明らかにするために、本研究では、国会議員や地方議員の活動とそれに対する有権者の評価に関するデータを収集し、実証的に分析した。研究の結果、議員の所属政党はもちろんのこと、性別や経歴によって、議会での活動や選挙区での政治活動の内容に大きな差異があることが明らかになった。それに加えて、有権者が候補者を評価する上で、それらの要素がどのように影響しているのかを探るため、日本とアメリカの二カ国でサーベイ実験を行った。その実験結果については、今後さらに分析していく予定である。

研究成果の概要(英文)：This research examined various activities of political actors both at the national and local levels. To understand differences across political actors, I collected and analyzed data of their legislative activities. Furthermore, I conducted a survey of local assembly members in the Tohoku region. The results of my research demonstrated that the personal attributes of political actors affect their choice of activities in the legislature and in their electoral districts. I also ran some survey experiments in Japan as well as in the United States to figure out factors that influence voter choice of electoral candidates.

研究分野：政治学

キーワード：議員 国会 地方政治

1. 研究開始当初の背景

政党には、政治家を発掘して育てるという役割がある。日本において政党が国会議員となった政治家をどのように教育・評価し、政治的指導者として育てているのかについては、これまで自民党の政調部会や国会の委員会などに焦点が当てられ、自民党議員のうち誰がどこに所属しているのかについて研究が進められてきた。さらに、そうした政治家の間で政府や国会などの役職ポストがどのように配分されているのかについて、所属派閥や当選回数に基づく「シニオリティ・ルール」に研究の焦点が当てられてきた。

しかしながら、政治家のキャリア形成過程を考える上で、当選回数や所属した政調部会や国会の委員会を見るだけでは、不十分な可能性がある。これまで「カネ」と「フダ」に直接関係する自民党の政務調査会のケースを除いて、政治家が実際にどのような政治活動に携わっているのかについては、ほとんど研究されてこなかった。とりわけ国会における政治家の活動とその影響については、まだ未解明な点が多い。たとえば、与野党を問わず数多くの政治家が、委員会で質疑に参加するだけでなく、質問趣意書や議員立法を提出している。しかし、時間モリソースも限られる政治家が、実際の政策決定に必ずしも直結している訳ではないにも関わらず、国会においてなぜそうした活動を行っているのか、まだ十分に解明されていない。

2. 研究の目的

本研究では、政治家間の違いについて、政治家の所属先を中心とする経歴のみならず、政治活動にも着目する。そのうえで、個々の政治家の間でそうした政治活動の中身がどのように異なっているのかについて、自民党以外の政党も含めて、具体的データをもとに実証的に解明することを目指す。そのために、

まず国会において誰がどの委員会で質疑に参加し政府の答弁を引き出していたのか、

誰が議員立法や質問趣意書を提出していたのかといった、国会における政治家の活動について分析する。次に、選挙での集票活動などを通じて国会議員を支える地方議員が、どのような政治活動に従事しているのか、そして国会議員との間にどのような関係を築き、それが地方議員の間でどのように異なっているのかを明らかにする。これら地方議員と国会議員が政治家としてのキャリアを形成する上で、有権者から十分な支持を受け、選挙での当選を重ねることが重要となるが、有権者の政治家に対する評価が、政治家の性別や政治活動など、どのような要素によって決まるのかを明らかにする。

3. 研究の方法

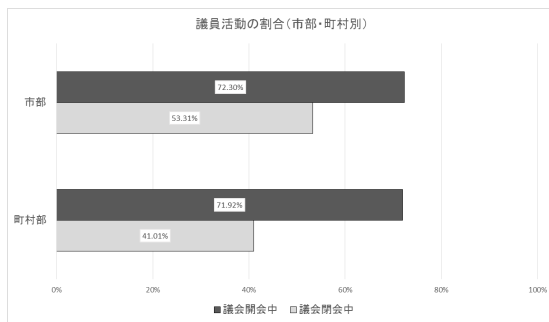
(1) 国会議員の政治活動については、国会議事録や衆議院・参議院で公開されている議事情報のデータを用いるほか、東京大学谷口研究室・朝日新聞社共同調査による候補者サーベイデータを用いて、計量分析を行う。
(2) 地方議員の政治活動については、独自のサーベイ調査を実施して、収集したデータを分析する。
(3) 政治家に対する有権者の評価については、有権者を対象としたサーベイ実験を行う。

4. 研究成果

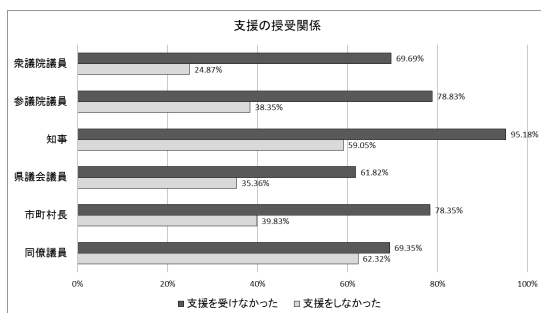
(1) まず国会議員の政治活動について、研究の結果、各議員の過去の経歴が国会内での政治活動(委員会での質疑や議員立法の提出など)に影響を与えていることが明らかになった。具体的には、地方議員を経験している国会議員ほど地元への利益誘導に直結する活動に携わる傾向があり、弁護士出身など法律に精通した国会議員ほど安全保障問題などの公共財に関わる活動に従事する傾向があることが見られた。こうした傾向は、議会活動を通じて有権者に他の議員との違いを見せることで集票活動を進めようとする議

員の戦略によるものであると考えられる。さらに、委員会審議での発言内容など、男女の議員間でも国会での活動内容に大きな違いが存在していることが明らかになった。

(2)次に、地方議員の政治活動について分析するために、東北地方での市町村議会議員を対象にサーベイ調査を行った。市町村議会議員としての仕事は、単に議会での審議に出席するだけにとどまらず、有権者との交流や、地域の要望について行政に働きかけるなど、多岐にわたる。サーベイからは、議会開会中と閉会中では仕事や日常生活に占める議員活動の割合は大きく異なり、一般的に前者のほうが後者よりも議員として活発に活動しており、その活動量が多いことが判明した。さらに、町村部に比べて市部の議員のほうが、議会閉会時でも活発に活動している結果が示された(図参照)。

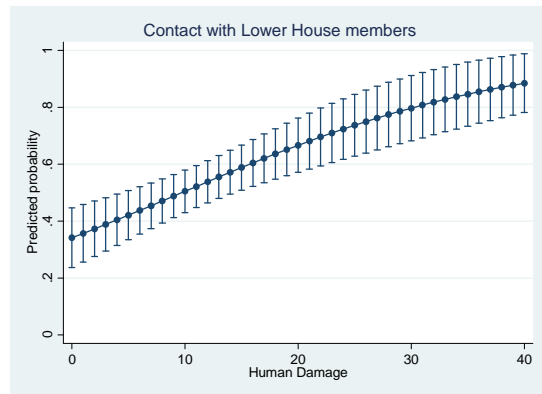


また、国会議員や知事など、他のレベルの政治家との関係については、市議会議員がとりわけ衆議院議員の選挙で動員されており、支援されるよりも支援する側に回る、支援超過の関係にあることが明らかになった(図参照)。



東日本大震災で津波被害が大きかった被災地沿岸部の市町村議会議員に焦点を当て

てさらに分析を行ったところ、人的被害が大きかった市町村の議員ほど、国会議員をはじめとして他のレベルの政治家との接触頻度が大きく、市町村議会議員が地域の中でいわば「linking social capital」として機能していることが明確になった(図参照)。



(3)政治家を評価する上で、有権者が政治家のどのような要素を基準にしているのかについて明らかにするために、サーベイ実験を行った。その結果、政治家の所属政党が有権者にとって最大の判断基準になっている反面、政治家の政策争点上のポジションや性別などが有権者の判断に一定の影響を与えており、とりわけ女性政治家に対してネガティブなバイアスが存在していることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

[1] Barry C. Burden, Yoshikuni Ono, Masahiro Yamada (forthcoming). "Reassessing Public Support for a Female President" *Journal of Politics*. (査読あり)

[2] Daniel P. Aldrich and Yoshikuni Ono (2016). "Local Politicians as Linking Social Capital: An Empirical Test of Political Behavior after Japan's 3/11 Disasters." *Natural Hazards* 84(3): 1637-59. DOI:10.1007/s11069-016-2503-x (査読あり)

[3] Yoshikuni Ono (2015), "Personal Attributes of Legislators and Parliamentary Behavior: An Analysis of

Parliamentary Activities among Japanese Legislators." *Japanese Journal of Political Science* 16 (1): 69-96. DOI: <https://doi.org/10.1017/S1468109914000395> (査読あり)

[4] 尾野嘉邦・山田恭平 (2015 年) 「東北地方における市町村議会議員調査の調査結果報告」『法学』(79 巻 3 号) 111-81 頁。(査読なし)

[5] 尾野嘉邦 (2015 年) 「国政レベルにおける女性政治家の行動：政治家の性別は政策選択と政治活動に差異をもたらしているか」『法学』(79 巻 4 号) 1-38 頁。(査読なし)

〔学会発表〕(計 14 件)

[1] Yoshikuni Ono & Barry C. Burden. "Contingent Effect of Candidate Sex on Voter Choice." 2017 American Political Science Association Annual Meeting (accepted) (San Francisco, 2017).

[2] Yoshikuni Ono. "Gender and Leadership Styles in Politics: Evidence from Japan." 2017 Midwest Political Science Association Annual Meeting (Palmer Hilton Hotel, Chicago, April 6, 2017).

[3] Yoshikuni Ono. "Do Disasters Affect Local Political Conditions?" 2016 American Political Science Association Annual Meeting (Loews Philadelphia Hotel, Philadelphia, September 4, 2016).

[4] Koji Kagotani & Yoshikuni Ono. "Normalizing Japan? Foreign Threats and the Operation of the Diet." 2016 American Political Science Association Annual Meeting (Marriott Downtown Philadelphia, Philadelphia, September 2, 2016).

[5] Yoshikuni Ono & Masahiro Yamada. "Don't Know Responses and Cultural Differences." (2016 American Political Science Association Annual Meeting (Marriott Downtown Philadelphia, Philadelphia, September 1, 2016).

[6] Masahiro Yamada & Yoshikuni Ono. "Survey Experiments on Don't Know Responses: Social Influence on Opinion Formation." 2016 Midwest Political Science Association Annual Conference (Palmer Hilton Hotel, Chicago, April 4, 2016)

[7] Daniel P. Aldrich & Yoshikuni Ono. "Whom Do You Call? An Empirical Test of

Political Behavior after Disaster." 2016 Southern Political Science Association Annual Conference (Caribe Hilton, Puerto Rico, January 7, 2016).

[8] Koji Kagotani & Yoshikuni Ono. "Normalizing Japan? Foreign Threats and Parliamentary Questions." 2016 Southern Political Science Association Annual Conference (Caribe Hilton, Puerto Rico, January 7, 2016).

[9] Masahiro Yamada & Yoshikuni Ono. "Why so Many Don't Know Responses in Japan?: Social Influence on Political Opinion Formation." 2016 Southern Political Science Association Annual Conference (Caribe Hilton, Puerto Rico, January 8, 2016).

[10] 山田真裕・尾野嘉邦 「DK 回答と社会的望ましさ」2015 年度日本選挙学会総会・社会心理部会 1：民主主義を支える有権者の能力(市民会館崇城大学ホール、熊本、2015 年 5 月 16 日)

[11] Yoshikuni Ono & Koji Kagotani. "Normalizing Japan? Foreign Threats and Parliamentary Questions." 2015 Midwest Political Science Association Annual Conference (Palmer Hilton Hotel, Chicago, April 18, 2015).

[12] 尾野嘉邦・籠谷公司 「周辺諸国の脅威と国会審議」2014 年度日本政治学会研究大会・自由論題：戦後日本の争点(早稲田大学、東京、2014 年 10 月 11 日)

[13] Yoshikuni Ono. "Personal Attributes of Legislators and Their Parliamentary Activities." 2014 American Political Science Association Annual Meeting (Marriott Wardman Park Hotel, Washington D.C., August 30, 2014)

[14] Yoshikuni Ono. "Parliamentary Behavior and Individual Incentives: An Analysis of Lawmaking Activities among Japanese Legislators." 研究集会「How Democracy Works in Japan: Quantitative Investigations」(学習院大学、東京、2014 年 5 月 20 日)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

尾野 嘉邦 (Ono, Yoshikuni)
東北大学・大学院法学研究科・教授
研究者番号：70598664

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

Barry C. Burden (University of
Wisconsin-Madison)
Daniel P. Aldrich (Northeastern
University)